

教員養成における小学校専門科目「図画工作」に関する研究（1） —小学校「図画工作」についての調査を通して—

小 江 和 樹 [鹿児島大学教育学部（美術教育）]
小 江 香南子 [鹿児島国際大学福祉社会学部]

A study on an elementary school special subject 'Art and Handicraft' in the teacher training (1)

— Through an investigation about the elementary school 'Art and Handicraft' —

OE Kazuki · OE Kanako

キーワード：教員養成、小学校専門科目、図画工作

1. はじめに

小学校教員養成を行なっている大学の学部、学科には、図画工作に関する小学校専門科目が開設されている。小学校において図画工作を指導していく上で、造形表現に関する基礎的知識や能力をもとにした実践的技能、さらに教材解釈や教材開発の能力は、指導者にとって非常に重要なものであると言える。そこで本研究では、小学校図画工作の実践的な指導力を育成するために、教員養成における小学校専門科目としての「図画工作」の在り方について明らかにしたい。

まず本稿では、小学校教員を目指す大学生へのアンケート調査を実施し、小学校で受けた図画工作の授業やその内容について調査し、経験の実態を明らかにするとともに、どのような領域、分野に苦手意識を持っているかについて考察する。

そして、その調査結果と現在の小学校図画工作科の教科目標、内容、教科書、教材事例との比較をとおして、教員養成における小学校専門科目としての図画工作の目的や具体的な内容について考察する。

2. 研究方法

(1) 小学校「図画工作」についてのアンケート調査

調査対象：

鹿児島大学教育学部学生 209 名

鹿児島国際大学福祉社会学部学生 93 名

調査項目：

小学校で受けた図画工作の授業

小学校で受けた図画工作の授業内容

小学校で受けた図画工作で最も楽しかった教材

回答方法：

選択式及び記述式

分析方法：

調査項目の内容ごとに集計を行い、それぞれの傾向と特徴をもとに考察

(2) 小学校図画工作科の目標及び内容からの考察

・小学校学習指導要領図画工作編

・小学校図画工作科教科書

・具体的な教材事例

(3) 小学校専門科目「図画工作」の在り方についての考察

・授業内容を構築していく上でのポイント

・具体的な授業内容の提案と実施

・考察結果から見えてきたこと（成果と課題）

3. アンケート調査の結果と考察

(1) 小学校で受けた図画工作の授業

「小学校時代、図画工作は好きでしたか」という質問に対する回答は、次のとおりであった。

表 1：小学校時代の図画工作

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| 1 「好き」 | 203 | 67.2% |
| 2 「きらい」 | 37 | 12.3% |
| 3 「どちらでもない」 | 62 | 20.5% |

調査対象学生 302 名の中で、「好き」と回答した

学生は203名で、全体の67.2%にあたり、高い数値であるといえる。しかしながら12.3%の学生は明らかに「きらい」であったと回答している。その理由として、次のようなことをあげている。

- ・自分自身が不器用であり、自信がない
- ・自分で考え、つくることが苦手。
- ・自分に美術のセンスがない。
- ・工作以外は面白く感じない。
- ・絵を描くことや想像してつくることが苦手。
- ・教材が決まっていて、自由に創作できない。
- ・先生から笑われた。
- ・自分の絵に先生が勝手に手を加えた。
- ・友達の作品と比べられた。

以上のような記述から、図画工作がきらいになる要因としては、次の二つの点が導き出される。一つは、自分自身の意識の問題としてとらえる場合、もう一つは教師からの言動や行動による場合である。特に後者は、将来教師を目指す学生にとっては、図画工作を指導していく上で、非常に重要な課題となってくる。

(2) 小学校で受けた図画工作の授業内容

小学校図画工作の授業内容を10の領域や分野に分類し、それぞれについて「好き」、「きらい」、「どちらでもない」、「経験しなかった」の4項目から選択する方法で調査を実施した。

①絵を描く

表2：「絵を描く」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 170 | 56.3% |
| 2「きらい」 | 75 | 24.8% |
| 3「どちらでもない」 | 57 | 18.9% |
| 4「経験しなかった」 | 0 | 0% |

絵を描くことを「好き」と回答した学生は170名で、全体の56.3%にあたり、それ程高い数値であるとは言いがたいようである。また全体の24.8%の学生が「きらい」と回答していることは、他の領域や分野と比較しても極めて高い数値である。これは、絵を描くことが「好き」と「きらい」をはっきりと分ける分野であるということを裏付けているようである。

②版画(木版画、紙版画など)

表3：「版画(木版画、紙版画など)」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 166 | 55.0% |
| 2「きらい」 | 46 | 15.2% |
| 3「どちらでもない」 | 89 | 29.5% |
| 4「経験しなかった」 | 1 | 0.3% |

版画を「好き」と回答した学生は166名で、全体の55.0%にあたり、絵を描くことと同様それ程高い数値であるとは言えない。また「きらい」と回答した学生が15.2%ということは、絵を描くことに比べて低い数値である。これは版画の持つ技法的な特徴、つまり描くことに加えて、つくる活動が含まれることや計画性を必要とする活動であることに起因しているようである。

③粘土でつくる

表4：「粘土でつくる」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 208 | 68.9% |
| 2「きらい」 | 23 | 7.6% |
| 3「どちらでもない」 | 67 | 22.2% |
| 4「経験しなかった」 | 4 | 1.3% |

粘土でつくることを「好き」と回答した学生は208名で、全体の68.9%にあたり、高い数値であると言える。粘土遊びを幼児期から経験していることに加え、触覚体験を重視した立体表現活動を好む傾向が高いことを裏付けているようである。

④工作(紙、木などを使って)

表5：「工作(紙、木などを使って)」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 228 | 75.5% |
| 2「きらい」 | 25 | 8.3% |
| 3「どちらでもない」 | 48 | 15.9% |
| 4「経験しなかった」 | 1 | 0.3% |

工作を「好き」と回答した学生は228名で、全体の75.5%にあたり、10の領域、分野の中で最も高い数値である。これは、粘土でつくる活動と同様、立体表現活動への興味、関心が高いことを裏付けていると考えられる。

⑤焼き物をつくる

表6：「焼き物をつくる」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|--------|-----|-------|
| 1「好き」 | 113 | 37.4% |
| 2「きらい」 | 4 | 1.3% |

| | | |
|------------|-----|-------|
| 3「どちらでもない」 | 35 | 11.6% |
| 4「経験しなかった」 | 150 | 49.7% |

焼き物をつくることを「経験しなかった」と回答した学生が約半数いるのに対して、「好き」と回答した学生が113名で、全体の37.4%という数値はある意味で高い数値であると言える。また「きれい」と回答した学生は4名でわずか1.3%であることも、このような結果を裏付けていると考えられる。

⑥造形遊び（教室内の活動）

表7：「造形遊び(教室内の活動)」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 163 | 54.0% |
| 2「きれい」 | 11 | 3.6% |
| 3「どちらでもない」 | 85 | 28.2% |
| 4「経験しなかった」 | 43 | 14.2% |

⑦造形遊び（教室外での活動）

表8：「造形遊び(教室外での活動)」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 159 | 52.6% |
| 2「きれい」 | 15 | 5.0% |
| 3「どちらでもない」 | 66 | 21.9% |
| 4「経験しなかった」 | 62 | 20.5% |

教室内の造形遊びを「好き」と回答した学生は163名で、全体の54.0%、教室外での造形遊びを「好き」と回答した学生は159名で、全体の52.6%にあたり、いずれも半数程度で同じような数値である。この数値から、教室外での活動の経験はやや少ないものの、造形遊びが、図画工作科の一分野として定着していることがうかがえる。また「きれい」と回答した学生は3%から5%で、いずれも低い数値である。これは造形遊びが立体表現活動であり、様々な材料を用いる点や遊び感覚で取り組める点などから、楽しい造形活動というイメージが形成されてきていることがうかがえる。

⑧パソコンで絵を描く

表9：「パソコンで絵を描く」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 112 | 37.1% |
| 2「きれい」 | 42 | 13.9% |
| 3「どちらでもない」 | 89 | 29.5% |
| 4「経験しなかった」 | 59 | 19.5% |

パソコンで絵を描くことを「好き」と回答した学生は112名で、全体の37.1%であり、それ程高い数値とは言えないが、「経験しなかった」と回答した学生が59名で、全体の19.5%という数値は、小学校図画工作にコンピュータを用いた授業が定着してきていることを裏付けているようである。

⑨写真作品の製作

表10：「写真作品の製作」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 47 | 15.5% |
| 2「きれい」 | 6 | 2.0% |
| 3「どちらでもない」 | 34 | 11.3% |
| 4「経験しなかった」 | 215 | 71.2% |

写真作品の製作を「経験しなかった」と回答した学生が215名で、全体の71.2%という数値は、10の領域、分野の中で最も高い数値である。カメラなど表現活動に必要な道具をそろえる必要があるための結果であると考えられる。また「好き」と回答した学生は47名で、全体の15.5%であるが、経験した学生の半数以上が「好き」と回答していることになり、興味や関心は高いと考えられる。

⑩作品鑑賞

表11：「作品鑑賞」の回答結果

| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 1「好き」 | 115 | 38.1% |
| 2「きれい」 | 41 | 13.6% |
| 3「どちらでもない」 | 114 | 37.7% |
| 4「経験しなかった」 | 32 | 10.6% |

作品鑑賞を「好き」と回答した学生は115名で、全体の38.1%、「どちらでもない」と回答した学生は114名で、全体の37.7%であり、同じような数値を示していることから、鑑賞の対象となる作品によって大きく左右されること、さらに図画工作の授業で「作品鑑賞」を展開するときの指導方法の難しさを示しているようである。

(3) 小学校で受けた図画工作で最も楽しかった教材

10の領域や分野に分類した小学校図画工作の授業内容の中で、記載が多かった領域や分野を順に示すと、次のようになる。

- 1位：「工作」……………全体の24.8%
- 2位：「絵を描く」……………全体の22.4%

3位:「版画」……………全体の18.4%

4位:「粘土でつくる」…全体の10.0%

この結果は、「好き」と回答した学生数が多い領域や分野と、ほぼ一致しているようである。具体的な内容としては、「工作」では、特に木を使った教材が数多くあげられている。また「絵を描く」では、教室内での活動よりも野外スケッチなどの教室外での活動が多くあげられ、「版画」では木版画の教材が目立っている。

4. おわりに

小学校図画工作の授業内容の中で好きだった領域や分野は、「工作」「粘土でつくる」「絵を描く」の順である。「工作」や「粘土でつくる」を好む学生が多いことは、触覚体験を伴ったつくる活動、つまり平面的な表現活動よりも立体的な表現活動を好む傾向が高いと考えられる。

また小学校図画工作の授業内容の中できらいと回答した学生が多いのは、「絵を描く」であった。「絵を描く」活動には、好きときらいがはっきりと分かれるという特徴が見られる。このような点から、図画工作の好き、きらいに大きな影響を与えるものは、「絵を描く」活動であると言える。ここには、描画の発達段階との関連性がその一因として考えられる。

小学校図画工作の授業内容で「経験しなかった」と回答した学生が多い領域や分野は、「写真作品の製作」「焼き物をつくる」である。いずれも興味や関心は高い分野ではあるが、特別な設備や道具を必要とするため、小学校図画工作の教材としては、定着していないようである。

以上のようなアンケート調査の結果から、小学校専門科目「図画工作」の在り方を検討していく上で、次のようなポイントがあげられる。

- ・好き、あるいは得意とされる領域や分野の内容をより深め、伸長すること。
- ・「絵を描く」ことへの苦手意識を克服するための具体的な方法を探ること。
- ・経験が少ない領域や分野の技術的な特徴を、体験を通して理解すること。

これらをもとに、それぞれの領域や分野の指導方法もあわせて理解していく必要がある。

なお次稿では、調査対象学生数を増やすとともに、アンケート結果をさらに深く詳細に分析して、学生の専門分野（所属専修）と図画工作各領域及び分野の「好き」「きらい」の傾向との関連性について明らかにしたい。

このような視点は、受講対象学生の所属専修に合わせて、小学校専門科目「図画工作」の授業内容を構築していく上で、重要な事柄であると考えられるためである。